

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 19日

事業所名 障害児通所支援事業ふらわーず

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	分からない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	1	0	・利用する子どもの年齢によってクラス分けを行い学習スペースなどを確保している。 ・毎日の活動も施設内だけでなく、所外活動も取り入れている。 ・法令を遵守したスペースを確保している。	・コロナ感染予防の観点から、出来るだけ蜜の状況を作らないように、活動場所を事業所内・外とやってきたが、天候によっては、全員が事業所内にいることもあり、1階・2階・フリースペースをフルに使っての分散を行ったが、一カ所にじっと出来ないお子さんのスペース確保が十分とは言えなかった。
	2 職員の配置数は適切である	4	0	1	1	・法令で必要とされている配置数に加え、保育士、又は、児童指導員を配置している。	・新しく入った職員より、人手不足で仕事が大変との声もあったが、職員の人員配置基準に乗った人員配置になっているので、採用時に運営規程や児発・放デイのガイドライン、人員配置基準などの基本的な事項を一緒に読み合わせるなど、職員の不安にならないような取り組みを今後していく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	2	2	0	・トイレ、風呂、玄関入口は車椅子の方には不便だと思うが、その際は、職員の配置を考え、介助出来る体制を整えるよう工夫。	課題)前年と同じく、手すりなどの設置はあるが、重度の障害のお子さんを預かるだけのバリアフリー化は出来ていないし、それだけの事業所のスペースを確保することは、難しい ⇒改善点:今の所、重度のお子さんの受け入れに関しては、保護者に見ていただいた上で、事業所を選んでいただいている。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	0	1	・日々、振り返りのミーティングを行い、皆で参画している。・朝のミーティングを徹底して行う。	・ミーティングとは別に、管理者ではなく主任による個人々人への説明・対応を徹底しながら業務改善を行っているが、主任の負担も大きく、また、コミュニケーションの苦手な職員が多くなり、意思疎通の難しさが顕著になってきている。主任以外に横のつながりを強化しながら、話しやすい環境を作りながら、個々でしっかり業務について考えPDCAサイクルが浸透出来るようにしていきたい。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	0	0	・毎年、事業所評価を行っている。多くの保護者に評価を頂けるよう提出しやすいように郵送OKにしている。	・自己評価もだが、事業所の活動については、その都度、アンケートを行い、保護者と内容の共有を行っているが、コロナ感染の状況で感染以外についても神経質になりすぎている状況になっているので、保護者との何気ないコミュニケーションを再度、徹底しながら、色々な意見を取り入れながら、業務に繋げていきたいです。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1	0	0		・年度最後の父母会(令和3年度は3月19日土曜日に実施予定)において、活動報告と共に、事業所の評価も絡めてお話して、事業所の状況を共通理解の上、お子さんの支援を一緒にやっていけるように協力を求めているが、真摯に受け止めて協力して下さる家庭が少ないと感じている。時間が掛かると思うが、自己評価や事業所より配布する通信で共に育てていく環境整備をしていきたい。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	1	0	0		・前年度と同じく、第三者評価に繋げることが出来なかった。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1	0	0	・職員に必要なスキルに合わせて研修を提供している。	・職員と「今後、やりたい事」「目標」を見ながら、研修を案内しているが、元々、子どもに関わる仕事に就いたことのない方が、外部の研修を受けてしまうと固定した考え方を強化してしまったとの反省もある。また、「変化を拒否する職員」に対して、研修の機会を確保してもやりたい職員とそうでない職員の温度差があり、全体のモチベーションを維持するのが難しい問題も出てきた。次年度は、事業所内の研修のやり方を再検討してい

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	分からない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	9	6	0	0	0		課題)前年度と同様、面談を設定しても中々来られない保護者がいる。今年度は、コロナ感染予防を徹底して場所も確保しながら行ったり、相談支援事業所のモニタリングに合わせて行った。今後も、事業所のモニタリングに来れない保護者に関しては、相談支援事業所と一緒に出来るようにしていく。
	10	5	0	1	0	・独自のアセスメントツールを使い、現状把握を行っている。	・利用者の年齢が上がって来ており、次のステップにあげるため(就労に繋げるためのツール)を利用しながら、アセスメントしていく予定。
	11	6	0	0	0	・ミーティングにて過去と現在の状況を評価シートを用いて記入している。	
	12	6	0	0	0	・季節や行事に合わせて楽しめるように工夫されている。	・年度末に次年度の利用希望と一緒に保護者の方にも事業所の活動に関する希望調査を行っている。そこに上がった活動も取り入れながら、家庭、事業所が連携しながらお子さんの支援に取り組んでいる。
	13	5	1	0	0	・発達に合わせたクラス分けをしている。	・今年度は、前年度よりコロナ感染の影響を受け、宿泊学習も実施出来ず、そのため、今まで一人一人の「目標」を設定しながら、保護者とも協力して活動してきたのが出来なかった。令和4年度は、再度、「目標を立て細かな設定」をしていきたい。令和3年度は、長期休暇に発達段階に応じて、4つのクラス分けをして活動を行ってきた。卒業を目指したクラスから2人の卒業者も出たことは、とても良かった。今後も、卒業(地域に出て行くために、デイ利用終了)に向けて取り組
	14	6	0	0	0		
	15	6	0	0	0	・朝礼時に振り返りやその日の活動内容、役割分担の確認など共有している。(ミーティングの徹底)	・今まで役割分担を行ってやってきたが、職員間のコミュニケーションがコロナ感染予防で減ったことと、新しく採用した職員との温度差があり、偏った職員の負担が課題になっている。職員同士のコミュニケーションが円滑に行える状況が早く来て欲しいと感じている。(長期休暇以外に急な休校によって、準備が間に合っていない)
	16	4	0	2	0	・毎朝のミーティングによって、前日の反省、振り返りを行い、次にどうするか話し合い、支援に活かしている。	・今年度は、急な休校が多く、職員間の打ち合わせに時間を割くことが出来なかった。また、支援終了後に時間を作る事は、子育て中の職員の負担になるため、あえてやっていない。令和4年度は、育休明けの職員も戻ってくるため、時間を有効に活用した振り返りの時間を取れるように調整して行きたい。
	17	5	1	0	0		・今年度は、コロナ感染の為に休校が多く、日々の記録が追いつかない状況を合ったため、記入を手書きでなく、PCによる入力に短期間だけ行った。職員で共有しながら記録が出来たので、今後の記録のやり方も検討していく予定。
18	6	0	0	0		・年に2回、前期:5~6月、後期:10~11月にモニタリングを行い、計画の見直しをしている。今後も年に2回のモニタリングもだが、必要に応じて、モニタリングを入れていく予定。	
19	4	1	0	1		・アルバイト、パート職員へのガイドラインの読み合わせが出来ていなかった事で「分からない」との回答もあったため、採用時にガイドラインの読み合わせを行って行く。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	分からない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	0	0		
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	0	0	0	・送迎などのミスがないよう学校の方へ積極的に情報を確認するように心掛けている。	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	1	0	0		・喘息発作のお子さんがあり、保護者との密な連絡調整と定期的に病院受診の状況を保護者から聞き、対応の方法を全職員で共有しながら対応に当たっている。看護師が在中していない為、医療ケアは、難しいが、事業所での活動中の喘息発作に関しては、吸引を行っている。個々に応じて、出来る支援を行っていきたくので、もし、医療的ケアの必要なお子さんを支援することになっても、事業所のスタンスは、変えずに受け入れていけるのであれば、受け入れる予定。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	0	0	0		
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	1	0	0		
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	0	0		
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	1	2	0	・地域施設やコミュニティに参加し、地域の子達と交流を図っている。	
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	2	0	1		・令和4年度から地域の自立支援協議会のメンバーに管理者がなったため、地域貢献と利用しているお子さんを地域に居場所を確保していく為に動いていきたい。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	0	0		
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	0	0	1		・父母の方より、子どもを見ている職員がペアレント・トレーニングをしてほしいとの要望があったのですが、当事業所で担うより、他事業所でのペアレント・トレーニングを案内しているのが現状です。色々な角度からお子さんの支援を行った方が、有効と考えています。
30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	0	1			
31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	0	0			

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	分からない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	0	0	1	・コロナの影響で中々行う事が出来ずにいたが、資料の配付や送迎時に情報提供を行う。 ・年1～2回、父母会を開催して、保護者同士の交流を図る。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	0	0	・トラブルになった場合は、保護者の思いを聞き取り、どう解決するかまで話し合いをしている。その後、やり方を職員全体で共有している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	0	0		・令和3年2月でホームページを更新し、活動内容がいち早くわかる状態を作っている。(ホームページの中でブログも更新中)
	35	個人情報に十分注意している	6	0	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	0	3	0		・地域の方々を招待するするまでには、至っていないが、まずは、事業所の活動で地域に出向く事を増やし、知っていただくことを優先にしてい
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2	0	0	・年1～2回の避難訓練によって、不審者対策や災害対策のSSTを行っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	0	0	・避難訓練の実施	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	1	1	0	・自分の持っていないスキルを向上するための研修機会がある(虐待防止研修) ・ミーティングや研修で虐待防止について学んでいる。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	2	0	0	・身体拘束になりうる可能性がある場合、保護者に許可を得た状態で行う。	・まだ、身体拘束の同意書作成に至っていない。今後、全保護者に説明した上で、身体拘束についての同意書を記入してもらう予定。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	0	0		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1	1	0		・ヒヤリハットノートはあるが、活用がうまくいっていない。今後、事例集の作成ができればと考えている。